



痛みの病理・病態を 漢方的視点で解き明かす



平田ペインクリニック 院長
平田 道彦 先生

1984年 佐賀医科大学（現・佐賀大学）
医学部 卒業
1993年 唐津赤十字病院麻酔科 部長
2000年 済生会日田病院麻酔科 部長
2007年 平田医院 院長
2009年 平田ペインクリニック 院長

平田道彦先生は、麻酔科のスペシャリストとして長年にわたり疼痛治療に携わり、日本の漢方界を支える山田光胤先生と織部和宏先生に師事し漢方学び、痛みの治療に漢方を積極的に取り入れ、疼痛漢方の確立と普及を進めてこられた。地元の福岡県で臨床家が漢方学ぶ「漢方浪漫倶楽部」を主宰するとともに、全国で意欲的に講演活動等を行っている。疼痛漢方の第一人者として活躍される平田先生に、現代医療における漢方の役割や今後の果たすべき役割についてうかがった。

——聞き手：編集部

世の中の漢方に対する見方に 変化が生まれる

——平田先生が、痛みの治療に漢方を取り入れるようになって約20年がたつということで、世の中での漢方に対する意識に変化はありましたか。

私は現在、医療関係者向けの漢方情報を発信する『漢方スクエア』というウェブサイトで「痛みの漢方治療」に関する連載をしているのですが、とてもアクセス数が多いと聞いています。痛みは麻酔科やペインクリニックだけではなくすべての診療科に関わってきますので、痛みの漢方治療に対する関心が高いのだと思います。

また、患者さんの漢方に対する意識も大きく変わってきたと感じています。クリニックを開業してちょうど10年になりますが、最初の頃は「治療は漢方で行います」と言うと、「えっ！」と戸惑う患者さんが多かったことを覚えています。それが今では、当クリニックを受診する患者さんの半数以上が、自ら調べて漢方治療を求めて来院されます。「いろんな西洋医学の治療でうまくいかなかったので、漢方がいいんじゃないかと思って来ました」と言う患者さんが少なからずおられます。

当院は「平田ペインクリニック」と看板を出して、痛みの治療専門を標榜していますが、アトピー性皮膚炎や乾癬といった皮膚科の疾患をはじめ、そのほか痛み以外の疾患・症状の患者さんも多く受診されます。その患者さんたちに「専門で